

研究推進全体会

I 主題設定の理由

自分の考えに自信をもち、学びをつなごうとする生徒の育成
～気づき、深化、つながりを意識した授業を通して～

近年顕著となってきたのは、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきている。スマートフォンやタブレットなどのIT機器の発達や普及は、教育現場においても教育方針の転換が求められている。このように変化の激しい社会を生き抜いていく子どもたちが、学習内容を深く理解して社会の在り方と人生とを結び付け、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって主体的に学び続けることができるようにする必要がある。

本校生徒の実態として、学習や学校行事など意欲的に取り組み、素直で明るく生活している。その反面、学習の目的意識が希薄な生徒が多く、授業に対して受動的になりがちな様子が見られる。さらに、様々な活動の場面で友達との人間関係をうまく築くことができない生徒や自分だけでは物事を判断できない生徒、自分の考えに自信をもてない生徒が見られる。

このような生徒に対して、将来の様々な変化の中、自らの可能性を發揮し、自分が自分として生きるために、「学び続けさせたい」「学んだことをさらに深めさせたい」「生涯にわたって主体的に学び続けさせたい」と願っている。そこで、日々の授業の改善に焦点を当てた。授業では、適切な場面で課題に対する自分の考えをもたせたり（気づく学び）、生徒同士で考えを伝え合ったりすることにより、互いの考えを深めて自信をもたせるようにしたい（考え・深化する学び）。さらに、学習を振り返ることにより、学びを他教科や私生活に生かそうとする姿勢を養いたい（つなげる学び）。このように、教師が各教科の多面的・多角的な見方・考え方を大切に、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という、生徒が主体となるような授業の改善を図れば、生徒は少しずつ自分の考えに自信をもち、「できたこと」や「分かったこと」をはっきりとさせていけば、学びを他単元や他教科に止まらず、自己の生活にもつなげ、生涯にわたって主体的に学び続けることができると考え、研究主題を設定した。

II 研究の内容

1 目指す生徒像

本校では、目指す生徒像を以下のように設定した。

目指す生徒
『自分の考えに自信をもち、学びをつなごうとする生徒』

2 研究仮説

教師が各教科の多面的・多角的な見方・考え方を大切に、気づき、深化、つながりを意識した授業を行えば、生徒は自分の考えに自信をもち、学びを他教科や生活につなげていくことができるだろう。

3 研究の手立て

(1) 各教科の多面的・多角的な見方・考え方を大切にした、3つの学びを意識した授業

例 社会科においての多面的・多角的な見方・考え方は、広い視野に立って社会に対する関心を高め、空間軸を広げたり、時間軸を伸ばしたりすることである。

【気付く学び】

授業の導入の場面で、何が課題で、どのようなことを学んでいくか気付く段階。

まず、課題を明確に意識させることが大切である。そのために、課題設定の仕方を工夫する。また、身近なことや生徒が疑問に考えることから課題を練り上げることも必要となる。導入の段階での生徒の気付きを大切に学ぶこととなる。

ア 明確な課題を提示するには

- 生徒にとって、分かりやすい・取り組みやすい・振り返りやすい課題を単元や授業の最初に提示する。
- 学習課題の文言は生徒にとって興味を引くものであったり、分かりやすく表現されたものにしたたりする。
- 生徒にとって、疑問に考えることなどを書かせ、その中のキーワードから課題を練り上げる。



【深化する学び】

課題に対して、自分で考えたり、生徒同士で協議したりしながら、学びを深めていく段階。

まず、授業において、課題解決のために必要な情報や意見が複数存在する場面をつくる必要がある。そして、資料や意見の中のキーワードに着目させながら、自分の意見を表記させる場面を設けることが必要となる。さらに、自分の意見をもとにして協議する場面では、協議する内容は妥当であるか、しっかり吟味した上で授業に臨みたい。

ア 意見をもたせるために

- ワークシートやノートに初発の感想や考えを書くことによって、何らかの考えをもてるようにさせる。
- 相談する時間をとることによって、自分の考えをもてるようにさせる。

イ だれもが意見を言えるようにするために

- 基本的な話す・聴くのコミュニケーションスキルを習得させる。
- 少人数での話し合いを行い、必ず自分の意見が求められ、必然的に発言する状況や場面を設定する。
- 状況に応じてペア・グループ・全体での話し合いの場を設定する。

ウ 考えを広げさせたり、深めさせたりするために

- 話し合いの際には、次のことを意識させて聴かせる。
 - ・ 友達の意見は、相づちをうちながら聴く。
 - ・ 根拠は何なのかを考えながら聴く。
 - ・ 自分の意見との違いを比べながら聴く。
- 自分の意見を言う際には、次のことを意識させて話をさせ



る。

- ・ 理由や根拠を明確にして話す。
- ・ 友達の意見との違いを明確にして話す。
- ・ 友達の意見に自分の考えを付加するなど、意見をつなげるようにして話す

エ 複数の情報が存在する場面をつくるために

- 様々な見方や考え方ができ、さらに考えのずれが起こる資料・情報を提示する。
- 生徒のかかわりから複数の意見や考えが引き出せる場面を設定する。

オ 情報を選べるようにさせるために

- 多様な考え方ができる資料、多様な意見の中から、生徒自らが必要とする情報に順位（軽重）をつけさせる。
- 資料や意見の中から、課題解決に必要なキーワードを見つけさせる。
- 情報を整理する際に、生徒の考えに基づいて工夫してまとめられるワークシートやノートを活用させる。

カ 自分の新たな意見をつくりあげさせるために

- 生徒が順位をつけた情報や見つけたキーワードをつながりながら、自分の意見を書かせたり発表させたりする。

【つなげる学び】

学習のまとめや振り返りの活動の中で、「できたこと」「分かったこと」をはっきりさせながら、本時の学びを他教科や他単元、生活に生かそうとする段階。総合や宿泊行事など、多くの場面で生かせるようにしたい。

まず、課題の解決に至るまでに必要な手がかりを提供することが大切になる。また、生徒が考えた仮説や見通しを確かめる場が必要である。その日の授業で学んだことをもとにして、他単元での課題や生活に中の問題の解決に生かしていこうとさせることが必要である。

例

- ① 数学・保健体育…円周率を使ってトラックのセパレートコースを引く。
- ② 英語・技術家庭…ステンレスの語源について調べ、説明する。
- ③ 理科・社会…流れる水の働きで作られた地形と栽培されている作物との関係性について調べる。

ア 筋道を立てさせるには

- 単元・時間の初めに課題を設定し、それを踏まえながら終末の場面で、自分が身に付けたことやできるようになったことなどを振り返る活動を行わせる。
- どのように課題に対して取り組めば解決できるかを考えさせ、解決に至るまでに必要な活動を計画させる。
- 自らの考えのつながりを整理できるように、ワークシートやノートを活用させる。

イ 自分の力で課題を解決できるようにするには

- 課題の解決に対して、既習事項から必要なことを結び付けて、自らの考えをもたせる。
- 自らの考えを表現する活動を行い、それに伴い、新たな考えを築き深め、考えを練り上げられる活動を行わせる。
- 自分の考えた仮説や見通しを確かめる活動を行わせる。

ウ 他教科や他単元とのつながりを意識させるには

- 教師が他教科や他単元、生活の場面で学習内容が生かされている例を紹介する。また、その学習内容を利用した問題や課題に取り組みさせる。

(2) ICT機器の効率的な利用

全教室に設置されるICT機器を効率的に利用する。教師が使用方法を覚えて、生徒に発信するところからのスタートになるが、最終的には、生徒も使い方を覚えて生徒から生徒に、生徒から保護者や地域の方々に発信することができるようにしたい。



生徒が課題に気付くためのICT機器の活用法、深化させるためにICT機器の活用法、つなげるためのICT機器の活用法を各教科の多面的・多角的な見方・考え方を大切にしながら、見いだしていかなければならない。

例 社会科においては、主に資料提示にICT機器を使用していきたい。課題設定につながる資料やグラフ、考えを深化させるための別の分布図や統計、生活につなげるための現場の写真の提示など。何をICT機器で提示して、何を板書するか統一していく。

(3) 生徒の実態を踏まえた、学年間での授業改善

学年の生徒の特色に応じた教育活動の実現に向けて、他教科の授業も学年間で参観し、授業改善につなげる。主に、今年度の3学期を中心に行う。(2学期に教科ごとに行われた授業改善を、来年度を見据えて学年間でさらに向上させる。)

(4) 総合と特別な教科「道徳」としての実践

体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。学年主任と道徳教育推進教師を中心に、家庭や地域社会との連携が図れないか検討する。

※ 8月8日(水)に行う第3回研究推進全体会では、波線部について、各教科部会で話し合っ
てまとめます。特に、各教科主任の先生には別紙にまとめてもらいますので、一人一人の
先生方が事前に考えておいてください。また、まとめられたものに沿って、2学期の実践を
行っていただきますのでご承知おきください。